

8. センターを運営する学生スタッフの育成

大学ボランティアセンターの運営形態は大学によって様々ですが、本学のボランティア・NPO活動センターでは、教育職員・事務職員・学生スタッフの三者が協働して運営しています。中でも、学生スタッフは「ピアサポート」という観点から、本学学生のボランティア活動を応援する重要な役割を担っています。

ボランティア相談をはじめとする日常的なコーディネート業務、チラシ整理やメールマガジンなどの情報提供、ボランティア活動を始めるきっかけとなる様々な企画など、学生スタッフが取り組んでいることは多岐にわたり、そのためには幅広い知識や経験が必要となってきます。

このことから、ボランティア・NPO活動センターでは、ボランティア活動を推進していくために社会課題に対する意識を持ち、社会に働きかけていく力をもった学生スタッフの育成を図るとともに、組織運営力、コーディネート力をつけることなどを目的として、学生スタッフへさまざまな研修の機会を提供しています。

事業名	ボラセン×学スタ ^{むげんだい} =夢限大 ～“できる”に気付くオリテ合宿2014～
日時	2014年5月17日（土）12時30分～18日（日）16時00分
場所	龍谷大学セミナーハウスともいき荘
実施主体	ボランティア・NPO活動センター
参加人数	学生スタッフ計99名（企画メンバー 7名・参加学生スタッフ 92名） 教職員5名
企画メンバー （学生スタッフ）	森本 浩司、星野 智子、西本 史佳、黒瀬 智加、依田 匡史、西村 若菜、 福田 七海

■経緯・目的

オリエンテーション合宿は、新しい学生スタッフにとって、ボランティア・NPO活動センターでの活動をスタートとするよい機会となり、上回生スタッフにとっては、これまでの活動を見直し、今後の活動をより良くしていく上で重要な合宿となる。そこで、2014年度のオリエンテーション合宿は、以下の3つを目的として実施した。

理解：ボランティア・NPO活動センター、学生スタッフ、ボランティアについて深く学ぶ

交流：深草・瀬田キャンパス間の学生スタッフのつながりを深める

成長：ボランティア・NPO活動センターと学生スタッフのパワーアップ

今回の合宿では「ボラセン×学スタ^{むげんだい}=夢限大～“できる”に気付くオリテ合宿2014～」というテーマを設定した。学生スタッフが持つ夢は無限大であり、様々なことに挑戦できる可能

性を秘めている。このことに気づいてもらうために「夢は無限大=夢限大」というテーマとした。

■概要

【1日目】

12：30～ 開会のあいさつ

12：40～ アイスブレイク

「私×〇〇=夢限大！

～みんなでアイスブレイク～」

「名前の足し算」のワークでアイスブレイクすると共に、「夢限大」のポーズ（∞）をしながら、「ボラセン×学スタ=夢限大」というテーマの意味を参加者全員が共有した。

13：45～ センター理解

筒井のり子センター長を講師に、ボランティア・NPO活動センターの設置目的や沿革、NPOについて学んだ。

講義に加え、ワークショップを通じ

て学生スタッフの役割について考えた。

16:10～ ワークショップ1
「キミの役割は夢限大！～いい話し合いの場を作る、参加者の役割を理解しよう～」ミーティングの参加者の役割について、チェックシートを利用しながら話し合った。

21:00～ 交流会
「ともだち100人つくろうぜ～Who is 間違いは誰だ～」新スタッフを紹介するゲームを実施し、学生スタッフ間の交流を行った。

【2日目】

7:40～ 朝のレクリエーション
「ボラクエ～朝の不思議なダンジョン～」
チームで協力することの大切さを、レクリエーションを通して体感した。

9:30～ ワークショップ2
「話す・聞くってなんだろう？」
良い例と悪い例の映像を見て、普段から行っている“コミュニケーション”について、改めて考えるワークを行った。

10:30～ ワークショップ3
「はじめてコーデは夢限大」
ボランティアコーディネートの模擬実施を通して、初めて取り組んだ新スタッフは、ボランティアコーディネートの基礎を学んだ。上回生はこれまでのふりかえりと共に、これからのより良いコーディネートについて考えた。

13:50～ ふりかえり
「夢の架け橋！僕らの“できる”は夢限大！」
合宿2日間を通して“できる”と気づいたことをあげ、これからの活動への意欲を高めた。

15:30～ 閉会の挨拶・記念写真撮影

■参加者の声・得られた効果など

ワーク1

- ・話すのが苦手だったが、意見を出し合って、共有することの大切さに気づくことができた。
- ・ミーティングは全員でつくるものだということが分かった。今後のミーティングでも意識していきたい。

ワーク2

- ・聞き手のことを考えて話すことが大切だと感じた。また、相手を思いやることも大切だと分かった。
- ・コミュニケーションはコーディネート時以外でも大切なので、普段から考えていきたい。

ワーク3

- ・はじめてのコーディネートであったが、先輩からのアドバイスがとてもためになった。
- ・ただボランティアを紹介するだけでなく、相手の興味を引き出すことも、コーディネーターの役割だと知った。

交流会

- ・ゲームを通じ、新スタッフとの交流ができた
- ・グループ以外のメンバーや新スタッフと交流するために、時間を長くしてほしい。

■学んだこと・今後の課題

- ・合宿の2日間、全学生スタッフがワークショップや講義を経験し、「理解」「成長」「交流」の目的達成に向けて意欲的に取り組むことができた。

ミーティングへの参加姿勢やコーディネートについてのワーク、ボランティアセンターに関する講義など、幅広い課題に取り組んだことで、これからの学生スタッフの活動に必要なことを学ぶことができた。新スタッフは新たに学び、上回生スタッフはこれまでの振り返りと、再発見があった。

この合宿で得た気づきから、学生スタッフとして活動していく方向性や目標などを見つけてことができ、個としての成長、集団としての成長につながったと考えられる。

また、普段関わることのない学生スタッフと、ワークを通して関わる機会を設定したことで、学年・キャンパスを超えた交流ができた。ワーク以外の時間でも幅広く交流ができるように呼びかけができると、なお良かった。

- ・合宿準備・本番を通して目的・目標を忘れがちになるため、テーマを基にした掛け声である「夢限大∞」をかけ合うことで、企画メンバーはもちろん、参加する学生スタッフも意識し続けることができた。それにより、目的・目標の達成に向けて一致団結して合宿に臨むことができた。
- ・新スタッフは学生スタッフとして、上回生は1年の始まりとして、活動を始める上で重要な合宿であるので、参加できなかった学生スタッフへのフォローが重要である。また、合宿中の学びや気づきを合宿後も考え、行動できるように取り組みを継続したい。



〈報告者:星野 智子、森本 浩司、西本 史佳〉

事業名	夏合宿(深草) LINE!繋ぐれ学スタ!みんなが作る夏合宿2014
日時	2014年9月9日(火)~9月10日(水)
場所	滋賀 近江八幡国民休暇村
実施主体	ボランティア・NPO活動センター(深草)
参加人数	学生スタッフ50名 コーディネーター1名
企画メンバー(学生スタッフ)	白土 奈央、田中 奏多、小田 美紀、中北 梢、新川 貴大、大矢 誠志、南山 裕紀

■経緯・目的

合宿本来の目的である「前期の活動を振り返り、後期の活動に生かす」を達成するとともに、現在の深草キャンパスにおける「学生スタッフが増えたことで、学生スタッフ同士、学生スタッフと職員間の関係がまだ密に築かれていないのではないか」という問題を解消し、後期のセンターの活動をより活発に、より濃いものにしてゆくために「繋がる」ことをテーマとした夏合宿を企画した。

■概要

〈1日目〉

- 12:30~14:00 前期振り返り
- 14:15~15:55 ワーク①(学生スタッフ意識向上)
- 16:10~17:50 ワーク②(コーデワーク)
- 18:20~19:50 BBQ
- 20:00~20:45 お風呂
- 21:00~22:30 交流会
- 22:30~23:40 肝試し
- 24:00 就寝

〈2日目〉

- 7:00~7:15 朝レク
- 7:30~8:45 朝食
- 9:00~10:40 ワーク③(ファシリワーク)
- 10:55~12:35 まとめワーク
- 12:45~14:45 昼食&自由時間
- 15:00 休暇村発

ワーク内容

- ・前期振り返り&後期スケジュール確認
前期の活動をパワーポイントで写真を用いて振り返り・反省し、後期のスケジュールを確認した。
- ・ワーク①(学生スタッフ意識向上ワーク)
前期の振り返りを元に、『自分が後期にどうなりたいのか→そのために自分は何をするのか→それがボランティアセンターにどんな効果をもたらすか』をみんなで模造紙などを用いて話し合い・共有し、ボランティアセンターの一員としての意識を強めるとともに学生スタッフとしての意識の向上をすることができた。

- ワーク②（コーデワーク）
「良い聞き手」になるためにはどんなことが必要かをまずみんなで考え共有し、その結果をチェックリストにした上で模擬コーディネーションに取り組んだ。事前にいい聞き手になるために必要なことを話し合ったこともあり、各人がそれらを意識して模擬コーディネーションに取り組むことができた。
- ワーク③（ファシリテーションワーク）
話し合いを円滑に進めるために、各人が話し合いの中での自分の役割を考えることを目的にお題のテーマについてファシリテーションワークを行った。最終的には、今年の深草の目標である「ボラセンの認知度向上」のためにどうすればよいかをテーマに、有意義な話し合いをすることができた。

■参加者の声・得られた効果など

- 自分たちが前期の間、結構サボっていることがあったなと感じた。一人ひとりが宣言したように変われば、ボラセンはもっと良くなると思う。
- さまざまな人と話すことができ、前よりもみんなと仲良くなれてよかった。
- このトキメキが薄れる前に行動に移したい！
- 後輩に伝えたいことがまだまだあると感じた。後期でいろいろな姿を示したい。
- 本当に自分を見つめなおそうと思える夏合宿だった。
- ボランティアやセンターについてまじめに考えた。
- 1回生が積極的で、自分も負けてられないなと思った。
全体的に、「普段話さない人と話せた」や、「後期はもっとボランティアに行きたい、センターに行きたい」といった声が多く見られた。それぞれが何らかの形で「つながり」を生むことができたのではないと思う。後期に向



けて、モチベーションや意識を高めることができたと感じている。

■反省点

〈コアメンバーから〉

- コアメンバー同士、コアメンバーと職員間、さらには施設との情報の共有が不十分だった。
- スケジュールに余裕がなかったので、もっとゆとりをもったスケジュールを組むことが必要だった。
- 名前を覚えていない人もいたので、名札等があるとよかった。
- コアメンバーとしての注意喚起や呼びかけをもっとするとよかった。

〈参加したスタッフから〉

- メリハリのある行動が大切と感じた。参加者としてけじめのある行動をすることが大事だと感じた。
- 誰かがやってくれるという意識ではなくて、個々人が団体行動を意識した行動をすることが大切だと感じた。

楽しさが先行するあまり、周りに配慮した行動やメリハリのある行動ができていない場面があった。合宿の本来の趣旨をしっかりと意識し、学生スタッフとしての意識ある行動が大事だと感じた。

■学んだこと・今後の課題

今回の夏合宿は本当に学びの多い合宿であったと感じている。合宿のテーマである「繋がる」は、それぞれがそれぞれの形で実現できたと思うが、今回感じたことを後期にいかせなければ「夏合宿をこれからの活動に“繋げる”」という一番大事な繋がりが生まれにくいことになるので、忘れずにこれからの活動に生かしていくと



ということが本当に大事なことであると感じた。また、大人数を動かすことの難しさを痛感した。人数が増えたからこそ「誰かがやってくれるだろう」という意識ではなく、個々人が「我がこと」意識を持って活動すること、周りを見て行動する意識をもつことが今後のセンターがさらにパワーアップするためにとっても大事なことであると思う。今回得られた「繋がり」や反省を後期に“繋げ”、センターとしてさらにパワーアップすることを、今後の課題としたい。



〈報告：白土 奈央〉

事業名	夏合宿(瀬田) 「見えざる1」を見つけん祭!!～みんなでかつごう青春みこし～ <small>ボラセン</small>
日時	2014年9月16日(火)12時～17日(水)17時
場所	ユースホステル和邇浜青年会館(大津市和邇)
実施主体	ボランティア・NPO活動センター(瀬田)
参加人数	学生スタッフ50名 コーディネーター1名
企画メンバー (学生スタッフ)	小川 菜緒、小林 陽太、首藤 翔真、小牧 裕美、樋口 朝香、余根田 敦、 高間 美穂、田川 智也、中川 涼太

■経緯・目的

瀬田キャンパスのボランティア・NPO活動センターの学生スタッフは学部や回生、それぞれの性格も多様なメンバーで、現在約50名で構成されている。そのため、それぞれの目標や思い、モチベーションの違いが存在することは当然である。しかし、その違いに対して戸惑いを感じる者、そのまま活動を続けることに不安を感じる者にとって、そうした状況は活動の障害や違和感となっているのではないかと考えられる。よって、この合宿でその違和感を取り除き、後期からの活動に楽しさや、やりがいを実感できる「成長できる組織」として意識の再構築を行うことを目的とした。

私たち学生スタッフの活動について、ボランティア・NPO活動センターという組織における「チームワーク」の在り方について、そして夏合宿のタイトルにも挙げている「見えざる1」とは何を示すのかをワークショップを通して考えた。また、参加者全員で協力して楽しく考えてもらうために、今回の夏合宿では「ワークショップ」を「祭」と表現した。

■概要

●1日目

- 12:00 集合
- 12:20 開会式、「名探偵タリバー」(アイスブレイク)
- 13:15 「You!既読しちゃうな Yooooo!」
→前期のボランティア・NPO活動センターでの活動を振り返り、後期の活動の目標を明確にするために、年度始めに立てた個人目標と前期に行ったボランティア活動を取り上げて振り返り、他の学生スタッフとそれに対する意見交換をした。また、後期の自分へ宛てたメッセージを書き、後期の自分の活動の目標を具体化させた。
- 15:15 「コーディネートはこーでねーと!」
→ボランティア・NPO活動センターの来室者と学生スタッフそれぞれについて、そして学生ボランティアコーディネーターとしての現在の自分について考えることで、私たち学生スタッフの役割に着目し、ボランティアコーディネーションに対するモチベーショ

ンの向上を図った。

- 18:00 夕食、入浴
 21:00 「壁こわしん祭☆」(交流会)
 →夏合宿だけでなく今後の活動においても学生スタッフ全員が結束して活動していくために、オリエンテーリングを行い、回生や学部の壁を越えて楽しくコミュニケーションをとった。
 22:00 1日目終了

●2日目

- 7:30 「朝の宴」(アイスブレイク)
 8:00 朝食
 9:20 「ボラセン バリバリ★バリュー」
 →学生スタッフそれぞれが持っている価値観それぞれが異なることを認識するために、議題に沿って話し合うことで視野を広げ、価値観の違いを認識することが「チームワーク」を築く過程において重要であることを知った。
 11:20 昼食
 12:20 「RPG」
 →物語に沿って学生スタッフそれぞれが担当する役割を果たし、協力して課題に向き合い、物語の目的を達成することを通して自分以外の人の意見を受け入れる寛容な心を持つ重要性、または自分の意志を正確に捉える重要性に気づき、チームワークの強化を図った。課題は前期の全体ミーティングで学んだ用語の復習、ファシリテーション・グラフィックを用いた問題、災害の発生時における対応を考えるといった内容で行った。
 15:00 「見えざる1を見つけん祭!～あなたにとっての『見えざる1』は?～」
 →「チームワーク」をおみこしに例え、おみこしをかつぐ自分の絵とおみこしの飾りの部分に合宿で発見したことや良かったことを記入して貼付け、大きなおみこしをみんなでかついでいる一枚の絵を完成させた。できあがった作品の様子からチームワークの大切さに気づいてもらうことができた。
 16:30 閉会式、アンケート記入
 17:00 終了、解散

■参加者の声・得られた効果など

- 自分の前期の振り返りに対して先輩や後輩から意見をもらうことができてよかった。また振り返りは大切なことであると改めて感じた。
- ボランティアコーディネートについてみんなで考えることで自分たちの役割が目に見え、理解することができ、後期から自分自身がやるべきことや自分に足りないものが分かった。
- 「価値観」について初めて考えて、人それぞれ考え方は異なるが、それが当たり前であると思った。受け入れることが大切であると改めて気づき、自分自身も受け入れていきたいと思った。
- 「RPG」で、物語が設定され、また屋外で行うという全く新しいワークショップで新鮮だった。その中でもしっかり内容が詰め込まれていて充実していた。
- 一人ががんばって動くのではなく、多くの人との協力を通じて企画などを進めていくべきだと思った。
- みんなが一人ひとりのことを考え、押し付け過ぎず、でもぶつかり合える、そんなボランティア・NPO活動センターになったらいいなと思った。

■学んだこと・今後の課題

- 合宿を企画・実施するにあたって、継続していききたいこと、時間配分や役割分担等の運営上での改善すべき点に関しては、春に行われる予定の春合宿への引き継ぎ、今後活かす。
- 今回の夏合宿で学んだことをより深く考え、活動へ取り入れるために、全学生スタッフを対象とした「後祭」を後日行う。また、これは夏合宿に参加できなかった学生スタッフも含めて行い、参加した者と参加できなかった



者の差を埋める。

- アンケートの結果から、人によって捉え方は様々であり、企画メンバーの予測とは異なる新しい考え方を知ること、企画メンバー自身も価値観の違いや他の考えを受け入れることの大切さに気づくことができた。
- 今回の夏合宿では、「見えざる1」を見つけること、つまり私たち学生スタッフに今必要な

チームワークの在り方に気づいてもらうことをテーマとしたが、それぞれの気づきには差があり、気づく速度もそれぞれ異なることを改めて学んだ。差を埋めるだけではなく、そのことを受け入れた上で活動を行っていきたいと考える。

〈報告者：樋口 朝香〉

事業名	春合宿（深草）「No.1じゃなくて Only1 ～世界に一人だけの学スタ～」
日時	2015年3月12日（木）～13日（金）
場所	龍谷大学セミナーハウス ともいき荘
実施主体	ボランティア NPO・活動センター（深草）
参加人数	学生スタッフ45名 コーディネーター1名
企画メンバー（学生スタッフ）	白土 奈央、藤原 恵太、福井 貴登、高野 喜暉、永翁 ふみな、新川 貴大

■経緯・目的

春合宿を行本来の目的「多くの学生スタッフが一度に集まる合宿という機会を用いて一年の活動を振り返るとともに、来年度に向けての目標や活動について考える」に加えて、今年度は、学生スタッフがセンターの一員であることを自覚し、主体的にセンターの課題について考えてもらうとともに、自分の存在意義に気づいてもらうことを目標とした。

■概要

《1日目》

- 12:40 アイスブレイク
- 13:10 振り返り&スケジュール確認
- 14:10 ワーク①【学スタとしてすべきこと?】
学生スタッフとしてのすべきことは何か?について考え、そこで出た意見について学生スタッフとしてなぜそれをする意味があるのかについて考えた。
- 15:50 ワーク②【藤原本舗を立て直せ!】
藤原本舗という架空の倒産寸前の会社をどうすれば立て直せるかということを通して、組織がよくなるためにどんな役割が必要か、また、それぞれがどんな役割を担うことが出来るかについて考えた。
- 17:30 ～夕食、風呂

20:30 交流会

23:00 就寝

《2日目》

- 7:30 朝のレクリエーション
- 8:15 朝食
- 9:00 ワーク③【理想のボラセンにするために?】
ワーク①、②を踏まえて自分たちが活動したい理想のセンターとはどのようなセンターかを考え、そこに近づくためにどんなことが今の課題なのかを考えた。そこからセンターの学生スタッフの一人として、自分がチャレンジできる課題とはなにかを考えた。
- 12:30 昼食
- 13:30 ラストワーク
2日間の合宿の振り返りと、お互いに普段いえない「たった一言」を伝え合うほめワークを行った。
- 15:30 解散

■参加者の声・得られた効果など

- お互いの違いを尊敬しあい、認め合いながら切磋琢磨していきたくと思った。
- 組織として動くなかで役割を認識したり、分担したりすることは重要なことだと改めて感

じた。

- ボラセンの課題について話し合い新しい考えや視点に触れられて嬉しかった。
- 考えさせられるようなワークが多いように思った。
- もっとボラセンに力を入れたいと思った。
- 学生スタッフ同士が仲良くなれてよかった。
- 普段やっている学生スタッフの仕事の意義なんて普段考えることがないので、いい機会になった。
- もっとひとつのことを深く考えるワークがしてみたい。
- ボラセンにおける自分の役割、存在について考えることができた。
- これからも悩みながら活動していきたい。

得られた成果としては、これから新年度の活動が始まるにあたり、今ある課題について学生スタッフがみんなで考え、意見を共有することができた。自分も学生スタッフの一員であり考える主体であることに気づくよい機会になったのではないと思う。



■反省点

〈コアメンバー〉

- ワークの準備をもう少し計画的にできるようにしたい。
- 当日の細かいスケジュール、備品、会場の設備などの確認をもう少ししっかり行いたい。
- もう少しゆとりを持ったタイムスケジュールを組むようにしたい。

コアメンバーでの反省会の中で、ワークの企画などに力を入れすぎて当日の運営や細かいスケジュールの確認、共有などがあいまいになっていた点があげられた。コアメンバー全体としての動きをもう少し確認し、共有しておけば、当日の運営などもさらにスムーズに行うことができたのではないかと思っている。

■学んだこと・今後の課題

合宿を作るうえで、とにかくワーク①、ワーク②、ワーク③がそれぞれバラバラに存在するのではなく①+②+③で“春合宿”としてひとつの“大きなワーク”が完成するようにすることを意識した。その“大きなワーク”がひとつの形となることを目指し、コアメンバーは当日まで、お互いに意見を出し合いながら真剣に準備に取り組んだ。それがなんとか形になることを願いながら当日を迎え、当日合宿に参加した学生スタッフが真剣にワークに取り組んでくれ、自分たちが作りたかった“大きなワーク”が形になっていくのを感じた。そこで改めて、合宿や企画はコアメンバーだけで作り上げるものではなく、そこに参加するみんながいて初めて完成するということを学んだ。そして、各ワークで45名というたくさんの人の考え、視点が共有されていき、お互いにいろんな発見があったと思う。その中で、まったくもって同じ考えや視点を持った仲間はいないし、違って当たり前で、それこそが“組織”の最大の強みであることを感じた。

今後の課題として、それぞれしか持ち得ない視点や考えをお互いが尊敬しあい、共有しあい、学生スタッフ一人ひとりの「チャレンジ」や「思い」、「行動」でどこまでも大きくなっていくセンターにしていきたいと強く思った。「このメンバーなら、絶対にできる」と思えたことも今回合宿の大きな学びであったと思う。

〈報告者：白土 奈央〉

事業名	春合宿(瀬田) おいでよ〇〇の森 みんなでつくろうボラセン村
日時	2015年3月16日(月) 13時00分～ 17日(火) 15時00分
場所	滋賀県立比良山岳センター
実施主体	ボランティア・NPO活動センター(瀬田)
参加人数	37人(学生スタッフ36人・コーディネーター1人)
企画メンバー (学生スタッフ)	中川 真実、山崎 あかり、長友 沙樹、橋本 直樹、田川 智也、 松尾 拓真、小川 諒也

■経緯・目的

瀬田学舎の学生スタッフは現在約50名で構成されている。しかし、次年度、国際文化学部移転等に伴い、現在のメンバーが少なくなり、これまでの雰囲気が大きく変わると考えられる。その変化に対して、今まで以上に、上回生になる意識と責任感、学生スタッフ同士の連携が必要である。そのため、これまでの1年間の活動の振り返りを行い、ボランティア・NPO活動センターをより深く知ることによって自分がメンバーの一人であることを再確認し、これからの活動をしていく意識をもつべきであると考え、よってこの合宿を、今年度の振り返りと共に、日々の活動に対する意欲向上のきっかけとなる合宿にし、新しい年度の活動に繋げていくことを目的とする。

■概要

【1日目】

13:10 開会式 アイスブレイク

13:50 班活動振り返りワーク

「俳 KING」

今年度の班活動の良かった・悪かったことを振り返り、反省点・改善点、継続することを見つけ、目標を決める。その内容を俳句にして伝えやすく短くまとめることを目的とした。

15:50 コーディネート振り返りワーク

「Let's make together! Ideal of the Villagell」
後期のコーディネート班ごとに振り返りを行い、他のコーディネート班と振り返り内容を共有することにより、モチベーション向上を目的とした。

17:35 今年度振り返りワーク

「めざせ!〇〇村長」

上回生になる意識をもつために、新しいスタッフが入ってくるボランティア・NPO活動センターにどのような雰囲気作りや環境作

りが大切であるかを考えることを目的とした。

18:20 夕食作り、夕食、入浴

20:50 交流会

22:00 就寝

【2日目】

7:10 アイスブレイク

7:30 朝食作り、朝食

9:00 企画ワーク

「ボラセン探検隊」

チームに分かれて体を動かしながらクイズに答えることで一体感や団結を感じる。また、いろいろな学生企画のことを理解することを目的とした。

10:30 昼食作り、昼食

12:00 全体目標決めワーク

「みんなで作ろうボラセン村」

ボランティア・NPO活動センターに求められていること、また、私たちが提供できることは何かを確認する。その後、全体目標を決めることを目的とした。

13:25 個人目標決めワーク

「MAKE A TREE!」

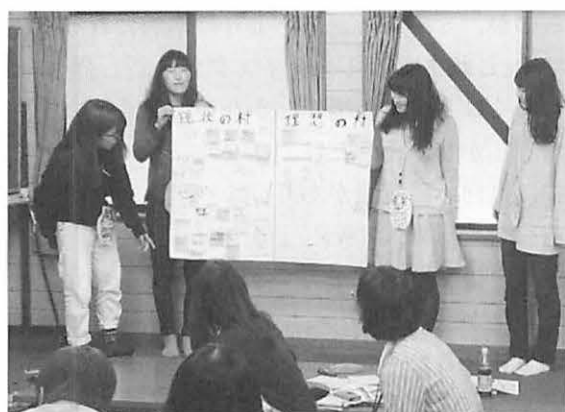
先輩の経験談や体験談を聞く時間を設け、それぞれ個人が次年度の目標を決めることによって、モチベーション向上に繋げることを目的とした。

14:25 合宿振り返り

15:00 解散

■参加者の声・得られた効果など

- 今年度の振り返りをして、今後の目標や方向性を決めるいい機会になった。
- 活動の振り返りを行うことで、この一年で自分がどのように変わったかが分かった。また、個人の目標をたてることで自分がこれから学生スタッフとしてどうなっていきたいかを考



えることができた。

- 総まとめとして、さまざまな視点から前期後期を振り返ることができた。
- 先輩の話聞く時間があって貴重な経験となった。
- 上回生になる自覚をもつことができ、これから後輩と共に成長していきたいと思った。
- 「ボラセン探検隊」のワークで、学生スタッフ企画について知らないことがあることに気付いた。
- 自炊することでみんなで協力する大切さを感じた。

■学んだこと・今後の課題

- 各ワークの趣旨・目的を全員でしっかりと考え共有しておいたので、チームに分かれワークづくりに取り組む際に、スムーズにできた。

また、お互いにフォローしながらワーク資料の作成などを行え、仲間で協力する大切さを学ぶことができた。

- 自炊をすることに対して不安はあったが、予定していたタイムスケジュール通りに進めることができ、新たな挑戦をすることができた。さらにチームワークの大切さやコミュニケーションを取り合うことの大切さを料理作りを通して伝えることができたと思う。学生にとって自炊はチャレンジングなことだったようだ。
- コアメンバーがミーティングに参加できない日があったが議事録を細かくとっていない日もあったため、共有が不足していると感じるときがあった。ミーティングでも議事録をとる体制を整え、決まったことや話し合ったことをメンバーで共有、ふり返る時間を取るべきであると思った。
- 当日、コアメンバーの指示や説明がきちんと伝わっていない時が多々あったため伝え方や、説明を工夫していくべきであると思った。
- 今回の合宿を経験して、多くのことを学ぶことができた。今後この学びを活かし自信をもって学生スタッフとして活動していきたいと思う。

〈報告者：山崎 あかり〉

外部団体主催の研修会参加

外部団体が主催する研修会やセミナーに学生スタッフが参加し、そこでの学びをボランティア・NPO活動センターに持ち帰り、組織の運営や企画、ボランティアコーディネイトに役立てます。

研修名	大学ボランティアセンター学生スタッフセミナー2014
日時	2014年9月8日(月)～9日(火)(1泊2日)
場所	セミナー会場：大阪市立青年センター KOKOPlaza 宿泊会場：新大阪ユースホステル
主催団体	NPO 法人ユースビジョン
全体参加人数	28名(9大学10キャンパス)
参加人数	深草学生スタッフ2名、瀬田学生スタッフ3名、合計5名

■目的

ボランティアについて他大学のスタッフと考えることで自分たちの活動を見直し、今後の活

動につなげていくためこのセミナーに参加しました。

■セミナー概要

一日目

- ①オリエンテーション、アイスブレイク
- ②全体会1「ボランティア」についてとことん考えてみよう
- ③テーマ別セミナー
 - (1) コーディネーション力を磨く
 - (2) ミーティングをもっと効果的に
- ④交流会

二日目

- ①朝のアクティビティ
- ②全体会2「ボランティアセンターがある意味、学生スタッフの役割を考える」
- ③センター別振り返り「セミナーでの学びをどう活かす？」
- ④写真撮影、セミナー終了

■参加者の感想

藤原 恵太

(文学部 仏教学科 2年次生)

このセミナーに参加して、「ボランティアとは何なのか」「ボランティアセンターの役割は何か」という問題を考えることで、これまであまり意識しなくなっていた原点に戻ることができた。すると、自分が思うボランティアと周りの学生スタッフの思い描いているボランティアには違いが生じていることに気づいた。ボランティアと一言でいっても様々なかたち、感じ方があるのだと思った。

また他大学の学生スタッフと情報交換をしていると、学生スタッフとしての共通の悩みやそれぞれの大学がそれぞれの悩みを抱えていることがわかり、夜遅くまで語り合うことができた。今回のセミナーでできたつながりはここで切らさずに、今後の活動に積極的につなげていきたい。

今回学んだことは参加者だけでとどめるのではなく必ず学生スタッフ全員に共有して、全員が意識を高めて活動していけるようにしていきたい。

中村 勇介

(法学部 法律学科 2年次生)

今回のセミナーを通して、様々な知識を身につけることができました。最も印象に残ってい

るのが、ミーティングをより効率的に行う方法です。これまでのミーティングでは話し合う場、もしくは共有する場でしかないと考えていました。しかし、それだけではなく、ミーティングには毎回必ず議題があり、ミーティングをする前に皆が議題について自分なりに考えてきて、それを出席者全員が必ず述べていく。例え、その考えが論点とずれていたとしても新しい発想が生まれるかもしれない。全員が意見を述べていくべき場なのだと実感しました。

また、他大学の学生スタッフとセンターの在り様、現在抱えている組織体制の悩みや問題について、夜遅くまで語り合いました。今回のセミナーで初めて会った方たちと自身の本音を述べたり、意見を共有しあうことで、非常に勉強になりました。

その方たちと今でも連絡を取り合い、会ったりもしているので、主に関西を中心にですが、つながりを持つことが出来たので、参加して本当に良かったと思います。

岡本 龍吾

(理工学部 電子情報学科 1年次生)

9月8日～9日にかけてユースビジョン主催の学生スタッフセミナーに行ってきました。

今回のセミナーには全国から9大学、計29人の学生スタッフが参加し、3人の講師の方を交えたワークや交流会を通して、それぞれのボランティアセンターにおける活動やコーディネートについて深く勉強させていただきました。

各大学のボランティアセンターには様々な学生スタッフの方の思いや考え方があり、お話を伺っていく中で、自大学で今後役立ちそうな意見や制度をたくさん吸収し、また自分の大学のボランティアセンターの良さを再認識することができました。

僕はとある学生スタッフのお話を聞いて感銘を受けました。その人の大学ではコーディネートの際に「チラシからは見えない」思いを来室者さんに伝えることが自分たちの役目であるとおっしゃっていました。今後たくさんの来室者にボランティアを紹介していくうえで、ボランティア先の団体の思いを伝えたり、ボランティアをする上での責任などを知ってもらえるようなコーディネートが心がけていきたいと思いました。

2日間という短い期間ではありましたが、たくさんの人との出会いが自分の成長につながっていることを実感しました。ぜひ機会があれば参加してみてください。

小川 諒也

(国際文化学部 国際文化学科 1年次生)

自分にとって今回が初めて他大学との交流、セミナーの参加であった。僕は多くの気づきを得た。まず普段自分たちが口にしてしているボランティアという言葉について話し合ったが、それぞれに異なる考えがあり熱く議論した。「どこまでがボランティアと呼んでいいのか」と悩み考え、「ボランティア」という言葉でくくれない物事も、社会に貢献していることはたくさんあると思った。そしてコーディネーションを話し合った時に、コーディネーターとはどのような立場かを改めて理解し直すことができた。他大学の人と話すと自分が得意なことや苦手な所が発見できこれからのコーディネートに生かそうと思った。そこからこれからどのように利用者の方に接していくべきかうっすらとわかった。

また、交流会で、他の大学と龍谷大学のボランティアセンターの違いを知り、龍谷はかなり規模が大きいことを知り、驚いた。他大学から

「龍谷大学はどうやっているの」と質問されたのは印象に残っている。

橋本 直樹

(社会学部 社会学科 1年次生)

このセミナーは様々な大学のボランティアセンターの学生スタッフが参加して、一緒に様々なことを学んだり他大学の人と交流をしたりするものです。今回のセミナーには龍谷大学の他に群馬県や福岡県などの大学が参加しました。

セミナーに行く前は不安と緊張しかなく「大丈夫かな」と思っていたのですが、気さくで優しい人ばかりですぐに打ち解けました。

セミナーでは、ボランティアについて考えてみたりコーディネーションやMT、学スタの役割についてなど様々なことについて話し合いました。このプログラムを通して、人によってボランティアがどういうものが違っていたし、学生スタッフの役割を改めて再確認することができました。また、交流会などを通して他の大学のセンターの仕組みやしていることを知ることができました。

今回のセミナーに参加してみて様々なことを学ぶことができたし、他大学の人とも友達になりましたし本当に参加して良かったです。

セミナー名	大学ボランティアセンター学生スタッフ リーダーセミナー2014 「次の年度をさらによい一年にするために！」
日時	2015年2月9日(月)～10日(火)(1泊2日)
場所	セミナー会場：京都文教大学(京都市宇治市) 宿泊会場：プライムイン城陽(京都市城陽市)
主催団体	【主催】NPO 法人ユースビジョン 大学ボランティアセンターリソースセンター 【協力】京都文教大学学生課・京都文教ボランティアセンター
全体参加人数	大学ボランティアセンターで活動している学生のスタッフのうち2015年度の運営の中核を担うリーダー層合計44名(13大学14キャンパス)
参加人数	深草学生スタッフ3名、瀬田学生スタッフ4名、合計7名参加

■目的

このセミナーでは、学生スタッフのリーダー層にとって必要な力・考え方を、他大学ボランティアセンターの学生スタッフと一緒に学びました。また、2014年を振り返り新年度の活動を

よりよいものにすることを目的に実施されました。

■セミナー概要

一日目

- ①開始、オリエンテーション
- ②アイスブレイク、参加者自己紹介
- ③京都文教ボランティアセンター見学・紹介
- ④大学ボラセンについて学ぶ
- ⑤組織とメンバーの関係について学ぶ
- ⑥交流会

二日目

- ①リーダーの役割を学ぶ
- ②セミナー後の行動計画作り
- ③全体共有
- ④質問、まとめ

■参加者と感想

白土 奈央

(法学部 法律学科 2年次生)

これから組織の代表として活動してゆくに当たり、どのように組織をマネジメントしてゆけばよいのか、代表とはどうあるべきなのかを考えたいと思い、今回のセミナーに参加した。そこでは本当に大きな学びがあった。自分たちが目指したい理想のセンターとはどのようなセンターであるのかを考え、そこに近づくために今どんな課題があるのかを考えた。この「理想＝現状＝課題」という考え方のプロセスは大事であると感じた。そこからさらに、その課題をみんなで共有してゆくことの重要性を学んだ。今までミーティングはもちろん行われていたが、そこにただ参加するだけではなく、組織の一員として「参画」してゆくことが大変重要であり、その環境を代表として整えることが重要であると感じた。正直このセミナーに参加するまで、人数が増えて大きくなった組織の代表としてこれからどうして行けばいいのかわからない不安な点が多かったが、セミナーへの参加を通して「参画」によるエンパワーメントをいかに発揮できるかが鍵であるということを知った。それから、他大学との交流を通し、組織外からの刺激を受け、もっと組織に新しい風を取り入れ、新たな考えに気づき続けることが重要であることも実感した。今後はそれらを意識しながら、人数の多さを最大の強みにしていけるようにこれから活動してゆきたい。

福田 七海

(社会学部 地域福祉学科 2年次生)

今回のユースビジョン研修に参加して、幹部として代表として先輩として、これからやりたいと考えていたことを実現させるための方法や目標を作ることができました。他大学の学生スタッフと、自分たちのボランティアセンターが抱える問題や解決方法を話し合い、問題はどの大学も似ているにもかかわらず、解決の仕方がそれぞれ違っていることがわかり、勉強になりました。また、センターでの活動やスタッフの活動をよりよくするための工夫もどんどん取り入れていきたいと思っています。特に印象に残ったのが、リーダーシップとは何かについてです。代表や、企画のリーダーになり、メンバーを引っ張るリーダー像に悩んでいましたが、今回の研修で、リーダーに必要なこと、メンバーのモチベーションを上げるために大事なことなどを学び、これから実践していきたいと思っています。

このような研修は昨年度に続いて、2回目でしたが、1回目の時に比べて、より深く考え、より吸収することができたように感じます。ここで学んだことをボランティアセンターでいかせるようにがんばります。

藤原 恵太

(文学部 仏教学科 2年次生)

私は今回のリーダーセミナーに参加して、具体的なこれからのビジョンを持つことができました。参加前は学生スタッフをまとめて引っ



張っていく立場であったにもかかわらず、何を目的に動くのか、何がしたいのかというのが曖昧でした。しかし、リーダーセミナーに参加してリーダーについてや組織のマネジメントについて考えられたこと、また他大学の学生スタッフと話をするなかで刺激を受けたことから、具体的な目的・目標をたてることができました。

私は今回で春夏合わせて3回目の参加でしたが、毎回違ったプログラムで、毎回非常に熱い